

令和7年 賃貸不動産経営管理士合格 試験日から逆算し計画的に学習

森 航希さん

20代 会社員

2025/ 賃貸不動産経営管理士試験 / 中上級カリキュラム / フル

賃貸不動産経営管理士試験の受験回数：2回目

カリキュラムの学習期間：2か月

賃貸不動産経営管理士試験を目指した理由・契機

賃貸管理会社で実務に携わる中で、更新・解約・原状回復・入居中トラブル対応など、契約と法令知識がそのまま品質に直結する場面が多いと痛感しました。経験で対応できることもありますが、判断の根拠を言語化して説明し、貸主・借主双方に納得してもらうには、体系的な知識が不可欠だと感じました。特に私は入社3年目で年齢も若く、どうしても「担当者としての言葉の説得力」を問われやすい立場だと思っています。だからこそ、感覚ではなく根拠をもって説明できるようになりたい、そして信頼を積み重ねられる担当者になりたいと考えました。そこで、管理実務に直結し、業務の精度と提案力を上げられる資格として賃貸不動産経営管理士試験を目指すことにしました。

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

社内の先輩が社労士試験の勉強でアガルートの教材を活用し、実際に合格していたことが一番のきっかけです。お昼休みなどの隙間時間にスマホで講義を見ながら学習している姿が印象的で、「忙しくても続けられる学習スタイルが作れる」と感じました。自分も業務の合間を有効活用して効率的に学びたいと思い、アガルートアカデミーの講座受講を決めました。

合格体験記・学習上の工夫

私が教材を購入したのは9月半ばで、試験日まで残り2か月を切っていました。昨年受検していたため多少のアドバンテージはあったものの、実際に1年ぶりに学習を再開すると、知識は「こんな感じだったな」という程度の記憶に戻っている状態でした。そこで最初に行った工夫は、試験日からの逆算による学習計画の作成です。11月16日までに講義

視聴・過去問演習・復習をすべて終えるために、いつまでにどこまで進めるかを細かく区切り、平日（会社がある日）はこのくらい、休日はこのくらいというように、現実的な学習時間も逆算して設定しました。

学習の進め方としては、まず総合講義で全体をしっかりと復習し、知識の土台を固めました。その上で過去問解説講座で反復練習を行い、出題傾向と問われ方に慣れることを意識しました。復習効率を上げるために、過去問は「一度正解できた問題は深追いしない」と決め、間違えた問題にのみ付箋を貼って重点的に見直す方式にしました。限られた時間の中で得点を伸ばすには、できないところに時間を集中させることが重要だと感じたためです。

さらに11月に入ってからは、総まとめ講座やヤマ当て模試などで最終チェックを行い、知識の抜け漏れを埋めながら仕上げに集中しました。本番直前は新しいことに手を広げすぎず、付箋を貼った間違い問題の解き直しを中心に総仕上げを行い、11月16日の試験当日を迎えました。

入門・中上級総合講義のご感想・ご利用方法

入門・中上級総合講義は、私にとって「昨年学習した内容の総復習」として活用しました。1年ぶりに勉強を再開すると、知識が断片的に残っている一方で、理解が曖昧になっている箇所や抜けが出ていた箇所も多く、まずは全範囲を一度きれいに整理し直す必要があると感じました。その点、入門・中上級総合講義は重要ポイントを丁寧に、かつ分かりやすく解説してくださるため、講義を一通り視聴することで試験範囲を抜けなく網羅できました。「ここが問われやすい」「こういう形で出題される」という視点で整理されているので、復習しながら得点に直結する形で知識を再構築できたのが良かったです。

また、1講義が10分程度とコンパクトなため、電車の移動時間や昼休みなどの隙間時間でも学習を進めやすく、忙しい中でも継続できたことが心強かったです。一方で、入門・中上級総合講義は最もボリュームがある講座でもあり、結果として学習時間の中で一番時間を割いたパートになりました。そこで私は、試験日から逆算して「いつまでに、どこまで終わらせるか」を明確にし、毎週の進捗目標を決めて計画的に視聴しました。正直、計画を立てずに進めると終わらないボリュームだと思います（笑）。しかし、期限と進め方を先に決めて取り組んだことで、最後までやり切ることができ、結果的にこの計画的な学習が合格につながったと感じています。

過去問解説講座のご感想・ご利用方法

過去問解説講座は、私の学習の中で「得点力を一気に上げるための中心教材」として活用しました。どの資格試験でも共通ですが、試験問題は過去問の延長線上にあることが多く、体感としても7割程度は過去問や類似論点から出題されると考えています。賃貸不動産経営管理士試験は比較的新しい試験で、過去問の絶対数が多いわけではありません。そのため、闇雲に幅広く手を出すよりも、まずは「過去問で問われ続けている重要論点を確実に取る」ことが最短ルートだと感じました。

その点、過去問解説講座では講師の先生方が「この問題は解けるようになっていないといけない」という必須問題を厳選してくださっており、重要度の高い問題から優先的に潰していったのが非常に良かったです。解説も、正解肢だけでなく誤り肢の理由まで整理されているため、知識が点ではなく線につながり、次に同じ論点が出て対応できるようになりました。結果として、厳選された問題を確実に押さえるだけでも、自然と過去問全体の正答率が上がっていった実感があります。

利用方法としては、総合講義と同じ順番で構成されている点を活かし、「総合講義を視聴→その範囲の過去問解説講座で演習」という流れを徹底しました。インプット直後にアウトプットを挟むことで理解が定着しやすく、弱点もすぐに把握できます。学習時間が限られている中でも、迷わず回せるルーティンを作れたことが、効率面でも大きなメリットでした。

教本改訂・法改正解説講座のご感想・ご利用方法

教本改訂・法改正解説講座は、法改正部分の不安を潰すために活用しました。資格試験は法改正が入ると出題されやすく、改正直後は過去問も存在しないため、どこまで押さえれば良いのか判断が難しいのが資格あるあるだと感じています。そんな中、この講座は改正点を要点から分かりやすく整理してくれるので、「知らない」「聞いたことがない」という状態をなくせるのが大きなメリットでした。出るか分からない法改正問題に過度に怯えるのではなく、「一度講義で聞いて理解している」という安心感と自信を持って本番に臨むための最終補強として利用しました。

頻出重要肢解説講座のご感想・ご利用方法

頻出重要肢解説講座は、私の中では「一問一答の暗記確認ツール」として活用しました。まとまった勉強時間が取れない日でも、空き時間があればサッと開いて読む、という使い方ができたのが便利でした。重要肢が網羅されているため、反復して解くだけでも自然と知識がインプットされ、取りこぼしを減らすのに役立ったと感じています。また、間違えた問題はメモを残し、なぜ間違えたのか（勘違いなのか、知識不足なのか、選択肢の読み違いなのか）を振り返るようにしました。この見直しを繰り返すことで、自分の弱点パターンが明確になり、知識の補強と同時にミスの予防にもつながりました。

総まとめ講座のご感想・ご利用方法

総まとめ講座は、直前期の「不安を取り除くための講座」として活用しました。どれだけ勉強しても、本番が近づくほど「取りこぼしがあるのでは」「まだ知識が足りないのでは」と不安になるのが試験だと思います。本講座は、その不安の原因になりやすい抜け漏れを短時間で点検でき、知識の最終確認に非常に役立ちました。私は11月に入ってから総まとめ講座を集中的に視聴し、学習初期に覚えた内容を再整理しました。すると「そうだった」と思い出せる点が増え、曖昧だった部分がクリアになっていきました。結果として、直前期にありがちな焦りを抑えつつ、取りこぼしを減らして本番に臨めたと感じています。

実践答練のご感想・ご利用方法

実践答練は、本番と同じような形式・時間感覚で問題を解くことで、緊張感を持ちながら実力確認ができる点が非常に良かったです。知識が入っていても、試験本番では「時間内に解き切る」「焦って読み間違えない」といった実戦力が求められるため、本講座でその感覚を事前に作れたのは大きなメリットでした。利用方法としては、解き終わった後に満遍なく復習するのではなく、間違えた問題・迷った問題に絞って見直しを行いました。どこで理解が曖昧だったのか、どの論点が抜けていたのかを明確にでき、弱点補強の優先順位を付けるツールとして活用できました。

直前ヤマ当て模試のご感想・ご利用方法

直前ヤマ当て模試は、「自信をつけること」と「忘れていた知識の最終確認」を目的に活用しました。実際に解いてみると、想像以上に解ける問題が多く、直前期に不安になりがちなかでも「今の自分なら戦える」という手応えを得られました。一方で、満点は現実的ではないからこそ、間違えた問題が貴重だと感じました。どこを落としたのかを確認し、直前に知識の穴を埋められたことで、「本番で落とす前に気づけて良かった」と前向きに総仕上げできた模試でした。